（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	おくらっこくらぶ			
○保護者評価実施期間	令和６年　９月１　日	～	令和６年９　月２０　日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	（放課後デイ）２１名＋（児童発達）２名	（回答者数）	（放課後デイ）１７名＋児童発達（２名）
○従業者評価実施期間	令和６年９　月１　日	～	令和６年９　月１０　日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	１０名	（回答者数）	１０名
○事業者向け自己評価表作成日	令和６年１０　月　９日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個に応じた個別支援計画書の作成。半年ごとのモニタリングに加え、必要に応じての見直しと作成のし直しを丁寧に行っている。強度行動障がい児の計画書も同時に行っている。また、併用事業所、以前の居場所、入学後の学校とのやり取り、卒業後の大人の事業所との繋ぎなど、連携をかなり密に行っている。	生きていくのに必要なスキルを、本物を使ったワークや生活体験、お手伝いの中で習得してもらえる計画を心掛けている。大人の事業所に行った後、困らないように、相手先で行っている作業について個に合わせた方法を考えたりそれをスムーズにできる練習をして、相手先事業所に見に来ていただき繋いでから卒業をして頂くようにしている。	毎日の繰り返しの作業や生活を丁寧に行っていくことがこの世を生き抜くことに繋がっていく。また、その中で、自分の好きなことや得意なことを見つけ、自分の意志の表出を行っていけるように支援していく。自閉症児においては、余暇活動さえも共に繰り返し行い、楽しみを作っていく支援もひき続き行っていく。
2	専門性の研修を職員の入職時から行い、毎月の職員会議の時にも研修をおこなっている。また、全職員がとれる資格はとっていくように社がフォロー体制をとっている。この、専門性のある職員が保護者や利用者本人に共感的に支援を行っていることは誇ることができる。	事業所内で問題が発生した時が学びの時。問題行動が出現した時が学びの時。職員の心を一つにして、方法論や考え方を統一することが最も大切である。強度行動障がい児を主に受け入れることで専門性を高めることができており、やりがいのある職場となっている。	研修は続けていき、今の法律や障がい者を取り巻く現状、強度行動障害者が現在受けられるサービス等、ユーチューブ等をうまく活用して、現代の福祉を敏感に研修に取り入れていきたい。また、インクルーシブに向けて、人権教育も更に行っていきたい。
3	保護者の相談に親身になって耳を傾け、事業所でできることを提案し、できるようになったら家庭に汎化していくことを大切にしている。また、事故発生の状況の説明や感染症の流行時には、いち早く保護者への通達を行っている。ヒヤリハットに関しても、保護者への報告を行っている。	今だけを考えるのではなく、それぞれのお子さんの将来像を職員間で共有し、一歩でも伸びる療育と自立できるように療育をしていくことに力を入れている。自分を知ることで得意なことを活かし、働ける子ども達にすることが大切だと思う。	絵や音楽といった余暇活動の充実や調理体験をさらに発展させて仕事としてスキルを身に付けて行くことに注力していきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	建物が手狭であること	車椅子利用児童のためのバリアフリーな物件であり、障がい者用トイレもあり、なかなかこれに替わる物件を容易には見つけられない。	工夫と整理整頓を行い、過ごしやすい空間づくりを常に心がけていきたい。
2	地域の子ども達や、児童館、児童クラブとの連携など、インクルーシブな取り組みを行う	強度行動障がい児を多く受け入れており、交流の際の他害や本人の混乱を回避する意味合いが強くなってしまい、交流が難しい。	今後は、この子ども達ゆえに、世の中に投げかけていける啓発の方法があるのではないかと模索していきたい。
3	兄弟間の支援・保護者へのペアレントトレーニングの推進	子どもの障害福祉サービスの充実により、家庭での過ごし方を工夫する世の中の在り方が変わってきている。保護者には、大人になった時には、子どもの時ほどのあずかり施設はないため、方法論を学んでいただけるように呼びかけているが、私達の啓発が足りないと思われる。	保護者が気軽に来所しやすい雰囲気づくりや、興味関心を調べ、現在の講師にさらにもっと様々な出会いを作って行けるように工夫したい。

（別紙４）

公表　保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	おくらっこくらぶ

公表日 2006年10月15日

利用児童数 ２１名 ＋ 児発 2名　　回収数 ~~16~~ 17名 ＋ 2名

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	10	2	1	2	部屋の数が少ない	整理整頓につとめ、現在の面積を利用し、食堂、ワーク、遊びの場など構造化を行い、安心できる配置にしている。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	11	1		3	コロナや感染症の流行時に人員がギリギリになる	歩行訓練時に利用者同士で手を繋いで歩く、大きい子が小さい子の面倒を見るという子どもの育ちが見られている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	14			1	物が多くてごちゃごちゃしている	車椅子利用児童も３名おられバリアフリー、専用トイレも完備、構造化により視覚によって場所の認識ができる配置
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11	2		4	視覚的にもわかりやすい空間になっている	今回、ワークのコーナーの見直しを行い、耐震補強も施した棚を二か所設置。これにより、個々のワークが探しやすくなった。
適切	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14	1				毎月の管理者の手作り資料による研修と更に外部の講師の研修、また、指導員の資格取得費用を会社が負担している。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	15					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	15				子、保護者のニーズ、課題についてのコミュニケーションを十分にとっている	

な支援の提供	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2 15					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2 15					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	2 14			1	固定（変更）しないことも子どもにとっては必要なこともあり、その都度対応してくれている	歩行訓練やワークにおいては毎日の繰り返しが必要である。個別ワークの時間に個に応じた学びを行っている。調理、野外活動など工夫している。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	1 6	2		1 7		歩行訓練時に下校中の地域の子と挨拶を交わすようにしている。今後は地域を巻き込んだイベントを考える。
保護者へ	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2 15				書面においても丁寧に説明している	
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2 15					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	2 14	1				月の第三木曜日に様々な講師を招いて勉強を行ったり、療育の様子を見て頂き家庭でも行える方法をお伝えしている。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	2 15					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2 15					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2 15				共感的でみな親身	

の説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	11	2		2	送迎時、兄弟への声掛けをしている。	親の会に参加している保護者同士、仲良くなり、共に支え合っておられる。まだ、参加人数が少ないため、兄弟支援も含め今後の課題としたい。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15					
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	15					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	15					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	15					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	15					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	15					
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	15					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	15					
	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	14			1		

満足度	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	2 13	1		1	時には行渋りが見られる	子どもが楽しんで行ける場所と社会に出るための訓練をする場を同時に作ることは難しい。子どもの得意なことや好きなことを活かしたワークや活動作りを行っている。
	29	事業所の支援に満足していますか。	2 15					

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	おくらっこくらぶ

公表日　R6 年 10月 15日

		チェック項目	はい	どちらともいえない	無回答	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	1	1	片付け、机の配置等により少し広く感じられるが利用者が多い日は手狭に感じる	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6		1	3	歩行時には少ない日もある。子ども同士で手を繋いでいただいて工夫している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9	1				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	1				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10					
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	6	1	1	2		少しずつ経営も軌道に乗ってきたため、第三者委員会への委託を考えていきたい。

	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10					
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9	1				ホームページ上で公開されていることを知らない職員が居るのは管理者の怠慢である。改めたい。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10					
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10					
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	10					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9			1		フォーマルなアセスメントも用いているが個を大事にしており、確かな見たてができている自負がある。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	1				管理者主導型から、児発管を中心としたプログラム立案をチームで行う方式に変更した。以前よりも指導員の士気が上がった。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	2				生きることは同じことの繰り返しや多少の我慢もついて回る。いつもスペシャルではなくコツコツとこなすことと、たまにイレギュラーを入れることがバランスよく行われている。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10					

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10					
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7	3			その日できない時は次の日に行っている。	終業時間は指導員の数が減るので次の日におこなっている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10					
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9	1				モニタリングをないがしろにしたことは一度もない。それが指導員間に浸透していないことは管理者の怠慢である。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	10					
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10					
関係機関や保	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9					
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10					
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10					
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	9	1				繋ぐことは最も力を入れており、おおむね３か月に一回は連携をしあっている。指導員が知らないということは管理者の不手際である。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10					

護者との連携	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	7	3				センターが必ずしもスーパーバイズできる立ち位置ではないのではないか？
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	2	2	3		地域の子どもを巻き込んで交流し、インクルージョンに努める活動を考えていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	10					
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10					
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	2				親の会やペアレントトレーニングを行う予定にはしているが、参加者を増やしていく努力を今後も続けていきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10					
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10					
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	10					
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10					
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	9	1		1		兄弟に対しての親の相談には乗っているが、実際に兄弟の支援を行う機会は持っていない為、今後工夫していきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10					

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	10					
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10					
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10					
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	3	1	2		今後の大きな課題である。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10					
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10					
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	10					
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10					
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	1				今後、研修や訓練を重ねていきたい。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	10					
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10					

	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10					
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	9	1				虐待防止委員会の際、身体拘束委員会を共に行い、常に話あっている。